

ベ議会だより つかい

第113号

2025年5月



輝かしい歴史に幕を下ろした
中西別幼稚園・中西別小学校・中西別中学校
最後の卒園・卒業式



特集

あなたの声を届けるために 2

令和7年度当初予算をじっくり審査..... 4

義務教育学校の基本構想を策定！..... 6

釧根自治体に先駆け こども家庭センター設置..... 7

観光分野でいきいき 地域おこし協力隊の活動..... 8

一般質問(田村・伊勢・中村・高橋・外山・市川・吉田の7議員) 9

議会活動アラカルト.....13

連載 「Let's go! 議会！」<第1回>.....15

シリーズ おじゃましま〜す 地域課題の解決策 町政と地域ぐるみでやっていきたい! ...16



北海道別海町議会

令和7年3月14日から

委員会を新体制に!!

常任委員会…担当部門に関する議案や請願などについて話し合います。

議会運営委員会…本会議をスムーズに進めるためのルールなどを話し合います。

特別委員会…必要があるときに設置して、特定の問題について調べて話し合います。

総務産業常任委員会

担当部門

総務部・総合政策部・経営管理部・産業振興部・建設水道部など



委員長
今西 和雄



副委員長 宮越 正人



委員 佐藤 初雄



委員 戸田 憲悦



委員 松原 政勝



委員 小椋 哲也



委員 高橋眞結美



委員 市川 聖母

福祉文教常任委員会

担当部門

福祉部・保健生活部・教育委員会・別海病院など



委員長
外山 浩司



副委員長 横田 保江



委員 中村 忠士



委員 田村 秀男



委員 貞宗 拓雄



委員 伊勢 徹



委員 吉田 和行

特集

あなたの声を届けるために



委員会ってなあに??

本会議の下審査機関のことをいいます。
議会には、常任委員会・議会運営委員会・特別委員会の3つがあります。

広報・広聴常任委員会

委員長 田村 秀男

副委員長 中村 忠士

広報小委員会

代表委員 高橋眞結美 副代表委員 吉田 和行
委員 松原 政勝 委員 宮越 正人
委員 外山 浩司 委員 伊勢 徹
委員 田村 秀男 委員 市川 聖母

広聴小委員会

代表委員 小椋 哲也 副代表委員 横田 保江
委員 佐藤 初雄 委員 今西 和雄
委員 中村 忠士 委員 田村 秀男
委員 戸田 憲悦 委員 貞宗 拓雄

新体制でさらに気合いを
入れて頑張ります!!

議会運営委員会

委員長 小椋 哲也 副委員長 今西 和雄
委員 戸田 憲悦 委員 高橋眞結美
委員 外山 浩司 委員 吉田 和行
委員 田村 秀男 委員 市川 聖母

議員定数等調査特別委員会

委員長 松原 政勝 副委員長 田村 秀男
委員 中村 忠士 委員 高橋眞結美
委員 今西 和雄 委員 吉田 和行
委員 小椋 哲也 委員 市川 聖母

予算決算審査特別委員会

委員長 横田 保江 副委員長 伊勢 徹
委員 西原 浩 委員 小椋 哲也
委員 戸田 憲悦 委員 田村 秀男
委員 佐藤 初雄 委員 宮越 正人
委員 中村 忠士 委員 貞宗 拓雄
委員 松原 政勝 委員 高橋眞結美
委員 今西 和雄 委員 吉田 和行
委員 外山 浩司 委員 市川 聖母



365億円を可決

次世代への投資

新

約630万円

社会勉強バックアップ・Uターン加速事業

奨学金利子の償還を全額支援し、町内に就職した場合は、職種に関わらず元金の償還を全額支援します。

新

約310万円

妊産婦安心出産支援事業

妊産婦の交通費および宿泊費、出産準備付き添い者の宿泊費を助成します。

新

約370万円

へき地保育園給食提供事業

へき地保育園への給食提供が始まります。

拡

約1億850万円

地域子ども・子育て支援事業 13事業

子育て世帯訪問支援事業や、ファミリーサポートセンター利用者の負担軽減が始まります。

80件以上の質疑で、じっくり審査！

令和7年度各会計予算は、予算決算審査特別委員会に付託され、2日間の日程で一般会計・特別会計・企業会計の全てを全会一致で可決しました。
より良い町民福祉のため、議会が責任を持って追求していきます。

令和7年度当初予算を審査

委員長 田村 秀男
副委員長 貞宗 拓雄



13,900人のくらしを支える積極予算

老後の安心

拡

約1970万円

高齢者バス・ハイヤー共通利用券交付事業

共通利用券を使い切った場合は、1回限り2万円分の利用券が追加申請できます。

新

90万円

高齢者交通事故防止サポート支援事業

急発進抑制装置設置の補助金で、対象者は主として満65歳以上の方、補助率は設置費の90%、限度額は6万円です。

その他主要

新

約3970万円

デジタル地域通貨OTOMONO流通事業

デジタル地域通貨を活用し、歩くことでポイントが貯まる「ウォーキングポイント」などを導入し、地域経済を活性化させる事業です。

拡

約3億9900万円

地域おこし協力隊推進事業 8事業

各分野における地域おこし協力隊員の人件費が主な経費です。
※交付税措置あり

経済の成長

新

4000万円

地域活性化拠点再生構想作成事業

旧中央公民館・旧消防庁舎・旧別海小中学校・小野沼公園・別海市街地学校、各周辺の構想作成委託業務です。

新

6000万円

自給飼料生産力強化対策事業

草地生産性向上を支援します。
自給飼料関連施設を整備します。

新

約670万円

中小企業省エネルギー化支援事業

省エネルギー化設備の導入を補助します。



総務文教常任委員会の活動報告

担当所管 総務部・教育委員会など 委員長 佐藤 初雄 副委員長 田村 秀男 委員 戸田 憲悦・吉田 和行・市川 聖母

義務教育学校の 基本構想を策定！

別海中央小・中学校が統合した 9年制の義務教育学校構想を策定

令和5年度から基本構想の継続調査を行ってきました。

今回の耐力度調査（構造耐力・健全度・立地条件）では、両校とも主たる棟で老朽化が評価され、交付金事業の対象になります。

【基本構想】

- ①施設一体型・全面新築を基本として計画
- ②建設敷地は、文教施設の集約化による連携・交流が促進される、別海中央中学校敷地を基本として計画

今後の展開は

多様な学習空間の創出や、異学年交流の促進を考慮した義務教育学校の建設形態が検討されていきます。

- ①基本設計・実施設計の策定は、令和8年度から2年間
- ②校舎新築工事は、令和10年度から3年間
- ③全体の事業期間は、令和17年度まで10年間
- ④校舎供用開始は、令和13年度を想定

拠点再生構想作成事業に 4千万円！

地域活性化の将来構想に着手

公共施設跡地や周辺の土地などの

有効活用を見える化

各拠点およびその周辺区域の配置計画などを、絵で表現した将来予想図を作成します。

令和6年度は、「ふるさと交流館およびその周辺区域」のエリア構想。

令和7年度は、

①旧中央公民館周辺

②旧消防庁舎周辺

③旧別海小中学校周辺

④小野沼公園周辺

⑤別海市街地学校周辺

の5カ所のエリアを対象として事業を実施します。



旧中央公民館

まとめ

2年間の振り返り

令和6年度には、委員会の調査を補完する「現地調査」「行政視察」「高校生との意見交換」を、積極的に行いました。

令和7年度からは、3常任委員会から2常任委員会に編成され、総務文教常任委員会はなくなくなります。

今後は、総務産業常任委員会、福祉文教常任委員会となります。

この2年間の調査・研究内容を新しい委員会に引き継ぎ、全ての町民利益に還元されよう議会の役割を果たしたいと思っています。



別海高校生と意見交換会

福祉医療常任委員会の活動報告

担当所管 福祉部・保健生活部・別海病院など 委員長 外山 浩司 副委員長 宮越 正人 委員 中村 忠士・小椋 哲也・高橋眞結美

釧根自治体に先駆け
こども家庭センター設置

相談窓口の一本化で

利便性に期待！

4月1日からスタート

妊産婦や子育て家庭の健康保持推進をサポートする母子健康機能と、子育て支援などの児童福祉機能を一体的に運営し、「切れ目のない漏れない支援」を提供することを目的としています。

場所は別海町民保健センター内です。

専門職と関係機関との連携

保健師、管理栄養士、臨床心理士、助産師が配置され、医療福祉および教育分野の関係機関と連携し、子どもの健やかな成長と保護者の子育てを支援します。

子育て情報の発信をはじめ、保護者にとって利便性が向上するの、今後も町民の声を聴きながら注視していきます。



別海町民保健センターに設置されたこども家庭センター

ごみ処理施設の延命化

根室北部広域ごみ処理施設

稼働から18年が経過

根室北部広域ごみ処理施設

平糸地区に建設され、別海、中標津、標津、羅臼の4町で負担し、燃えるごみを処理しています。

施設の延命化を図り、二酸化炭素排出削減の方向で、令和8年度に基本設計、令和9年度から工事を行う計画です。



広域ごみ処理施設の中央制御室

本町のごみ処理場

上風連地区に設置されており、燃えるごみ以外のごみを処理しています。

集めたごみは、ごみ処理場とリサイクルセンターで選別や圧縮などの中間処理を行い、資源物としてリサイクル事業者に売却するなどしています。

また、リサイクルできないものは最終処分場に埋め立てるなどしています。

まとめ

迅速なこども家庭センターの

設置に評価

「福祉部、保健センター、教育委員会を回り、同じ内容を聞かれて大変だった」「書類の書き方、添付書類の準備が大変だった」など、委員会の現地調査でお母さん方から多くの声があがりました。

委員会協議会では、包括的な支援の一本化、家庭センター設置の提言を検討していた矢先の町からの報告でした。

釧根地区に先駆けての迅速な設置は、有資格者が充実している本町ならではの高く評価します。

生ごみを減らすことが課題

10年間で燃えるごみは年々減少していますが、脱炭素社会を目指すためには、さらなる減少を図る必要があります。

燃えるごみの多くが生ごみで、その8割が水分と言われており、今後はその割合をどう減らしていくかが課題と考えます。

産業建設常任委員会の活動報告

担当所管 産業振興部・建設水道部など 委員長 今西 和雄 副委員長 横田 保江 委員 松原 政勝・貞宗 拓雄・伊勢 徹

観光分野でいきいき 地域おこし協力隊の活動

今後も活動状況の 見える化に期待

観光振興における協力隊の活動

観光協会と連携し、道の駅などのフォトスポット設置や、食に関わる新商品の開発・宣伝などに取り組んでいます。

また、尾岱沼ふれあいキャンプ場・野付半島ネイチャーセンターにおける利用者対応、施設管理業務を行っています。

さらに、SNSなどの情報発信や自主事業企画など、隊員の専門分野を存分に生かした活動にも取り組んでいます。



産業祭で出店する隊員

まとめ

2年間の委員会事務調査を終えて

酪農では、飼料・肥料など生産資材の高騰が経営を圧迫、町独自の対策で2度にわたって水道料金の免除が実施され、委員会で内容を調査しました。

漁業では、主要魚種である鮭の不漁が続き、大きな打撃を受けています。

原因についてはいろいろ想定されますが、町だけでなく、道などとともに解明に向け取り組むことが必要です。

商工では、コロナ禍での外出自粛以来、客足の流れが大きく変わり、飲食店を含む事業者には大きな影響を与えています。

一方で、民間業者によるホテル開業や、プロ野球球団の設立など前向きな動きも見え、期待が高まっています。

ふるさと交流館の今後については、新たな源泉の掘削が決まり、宿泊・レストラン部門の再開も視野に検討を重ねています。

他自治体の現地視察も含め、継続調査をしていきます。

建設水道部門では、町道や水道など町民生活のインフラに関わる重要な分野を担当しています。

1200⁺に及ぶ町道や水道管の補修・改修は、年次計画に沿って実施していますが、大地震が予測されている今日、より具体的な対策・対応が不可欠です。今後も注視していきます。

委員の構成人数も増え

より活発な議論へ

新年度から新たなメンバーが始まります。

継続調査事項を中心に、現地調査も含め活動していきます。



アーチから望むふるさと交流館



詳細はこちらからご覧になれます

議員7人による一般質問

質問

ヤングケアラーなどの 横断的な支援対策は



たむらひでお
田村秀男議員

質問

ヤングケアラーの把握、相談支援窓口の設置、地域協議会の設立、職員の研修や専門職の採用、「別海町子ども・若者支援計画」の策定などの支援対策は。

答弁

小中学生については、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが窓口になり、相談などに対応している。

また、SOSの出し方教育を各学校で実施している。

小中学生以外の実態把握については、保健・福祉・介護に関係する機関での相談や民生委員など、地域からの情報提供に努めている。

専用の相談窓口や地域協議

会は設置していないが、今ある要保護児童対策地域協議会などとの連携を図っている。

令和7年度では、子育て世帯訪問支援事業やこども家庭センターなどで、より細かな対応を計画している。

その計画を実現するためには、職員の知識・技術の向上と、専門性を有する人材の確保が必要不可欠であり、採用を計画的に進めたいと考えている。

ビジョンとなる「別海町子ども・若者支援計画」については、現在、策定に至っていない。

教育・福祉・保健・医療機関など各関係分野が相互に協力しながら、一体的に子ども・若者の意思を十分に尊重しつつ、必要な支援を提供できる体制の構築に努めている。

質問

地域を支える交通手段 公共ライドシェアの導入は



いせとおる
伊勢徹議員

質問

地域生活バスの令和5年度の年間利用実績は。

答弁

運行日数は、295日間。利用者数は、上風連線2829人、上春別線5874人、西春別線1万5993人、尾岱沼線4592人。

質問

公共ライドシェアに、どのような考えを持っているか。

答弁

交通空白地の交通手段の確保を目的として、この制度を活用している。

質問

別海町通院等乗合ハイヤの運用開始から、これまでの利用実績は。

答弁

令和3年度の運行回数は50回で、利用者数は

148人。

令和4年度の運行回数は54回で、利用者数は172人。

令和5年度の運行回数は66回で、利用者数は176人。

質問

病院や診療所、ふれあい・いきいきサロン、買い物などに行く手段がない方々が、今後増えていくことへの対応策は。

答弁

別海町高齢者保健福祉計画の重点施策と位置付け、高齢者の移動手段確保策を検討している。

質問

別海町通院等乗合ハイヤ制度を拡充することについての所見は。

答弁

このサービスをより多くの方にご利用いただけるようアンケート調査を実施し、得られた情報を精査するとともに事業者と調整を行う。

利用条件の緩和など、制度内容の拡充を図っていききたい。



議員7人による一般質問

質問

「聞き取りにくさ」に対する支援は



なかむらただし
中村忠士議員

質問 町のニーズ調査で、

半数の高齢者が「聞き取りにくさ」を感じている。

早期の幅広い対策が必要ではないか。

答弁 地域包括支援セン

ターでは、相談者に耳鼻科受診を勧めたり、受診の状況把握とともに、必要に応じて耳鼻科と連絡調整の支援をしてきた。

今後、適切な診断により補聴器の使用が認められ、購入を希望される方に対し、購入に伴う経費の一部を助成する事業の実施に努めていきたい。

質問 昨年6月議会で横田

議員が「軟骨伝導イヤホン導

入」を提案していた。

検討すると答弁していたが、進捗状況は。

答弁 一台購入し、相談時などに使用してもらった。

実証結果を踏まえ、今後、高齢者などの利用が多い窓口

西春別駅前市街隣接滑走路（計根別着陸場）使用の安全性確保を

答弁 国防のためには、軍

事訓練は必要である。ただ、町の演習施設を必要とする訓練や他でもできる訓練など、どこで実施するかはさまざまである。

町の演習施設を使わず実施できる訓練であれば、できるだけ使わないでほしいことや、使うにしても地元の方々が不安を抱かないような対策をしっかりと主張していく。

質問

誰にでも優しい
ふるさと交流館を



たかはし ゆみ
高橋眞結美議員

質問 レストラン・宿泊部

門再開の報告があった。

改めてふるさと交流館の位置付けを確認したい。

答弁 地域経済の循環推進

だけではなく、交流促進や福祉的機能といった役割を有する施設として位置付けられる。

質問 箱物には人権の配慮

が求められる時代だ。

30^号強もある浴槽の段差は、子どもから高齢者まで利用しやすい高さではない。

また、車いす用の浴場も必要と考える。

多目的トイレは、オストメイト対応の設備やユニバーサ

ルシートも設置されていない。

これらは課題として認識されているのか、見解を伺う。

答弁 課題として認識している。

施設の改修時には、多様な利用者へ配慮した設備や機能の導入も協議し、利用者に楽しんでいただける施設を目指したい。

質問 「改修」という答弁

があった。町長はどこまでを視野に改修を考えているのか。それは、いつまでか。

答弁 バス1台分の人数が収容できるくらいの客室が必要。それに応じた浴場やレストランと考える。

全面的な改修または増築を、今年中には必ず着工していきたい。

それくらいな迅速性で取り組みたいと思っている。



詳細はこちらからご覧になれます

議員7人による一般質問

質問

別海高校酪農経営科の今後は



とやまこうじ
外山浩司議員

質問

別海高校酪農経営科は、昨年3人、今年が4人の受験者だった。

普通科の場合、2年連続受験者が10人を下回ると、募集中止を地元と協議していく方針があるようだが、酪農経営科は該当しないのか。

答弁

普通科、酪農経営科を合わせ40人以上の欠員が、数年続いている状況だが、北海道教育委員会から再編成の協議に関する通知はきていない。

質問

過去3年間で、地元から別海高校への進学割合については。

答弁

令和3年度は、154人中57%。令和4年度は、145人中47%。令和5年度は、151人中45%。

質問

本町の中学3年生は、令和6年度が159人。

令和7年度以降135人、132人、122人、130人、106人、127人、99人と減少していく。

地元からの志願者が80%前後に達しないと、普通科3間口維持は難しい状況と思うが、教育委員会の見解は。

答弁

本町の中学生の人数は減少傾向にある。これは、本町だけでなく全国・道内・管内も同じ状況にある。スポーツや勉強のため、別海高校以外に進学する生徒が一定数いると考えられる。

3間口確保に向けて、関係機関と引き続き、連携・協議をしていく。

質問

誰もが分かりやすい行政を目指して



いちかわ まりあ
市川聖母議員

質問

町民に寄り添った素晴らしい政策が展開されているが、役場ならではの回りくどい言い回しや、専門性の高い言葉などが多く、誰もが分かりやすい行政資料とは言えないことがある。

本町の最上位計画である第7次別海町総合計画も、膨大なページ数で、しかも内容が難しい言葉で書かれていたり、読んでほしい人に読まれないという、残念な結果になる懸念はないか。

答弁

事業によっては、正確性や公平性の観点から、専門性の高い言葉を使うことが望ましいことも理解してほしい。

しかし、難しく感じられることで、読まれにくくなる懸念はある。

質問

今後の町づくりを町民みんなで行っていく上では、手引書のようなものを作成し、分かりやすい言葉を推奨する考えはあるか。

答弁

総合計画などの「町の方向性」を策定する際は、多くの町民に関心を持っていただき、理解しやすい形で伝えることが重要だ。

できるだけ分かりやすい表現を推奨する考えがある。

また、手引書を作成すると、表現の選択が固定され、むしろ柔軟な対応が難しい。

その代替策として「生成AI技術」を活用し、状況に応じた適切な言葉遣いに変換することを検討している。



議員7人による一般質問

質問 より良い教育の実現と 学校における働き方改革とは



よし だ かすゆき
吉田和行議員

質問 業務改善計画策定前後の変化は。

答弁 令和2年度と令和5年度を比較して、小学校で年間40時間、中学校で24時間、時間外在校時間が減少となっている。

質問 教育委員会が行ってきた環境整備の取り組みは。

また、学校を管理する教育委員会が保護者、住民、企業などに説明の場を設けたことはあるか。

答弁 音声メッセージ電話の導入、特別支援教育支援員の増員、各種業務の電子化、Wi-Fi環境の整備など、各種働きやすい環境整備を進めている。

備を進めている。

説明の場合は、単独で実施はしていないが、コミュニケーションスクールにおいての説明や文書で、保護者に町の考えを伝えながら、理解や協力をお願いしている。

質問 文書だけで理解、納得するのは難しいのでは。

答弁 今後、検討はしていきたいと思う。

質問 今後、教員のウェルビーイング、子どものより良い教育の両立のために、各種サポート人材の拡充が必要と考えるが見解を。

答弁 教員以外の専門スタッフが参画したチームとしての学校運営は必要不可欠だ。各学校の実態に応じて、必要とされる人材の拡充を含め、教職員の負担軽減、子どもの学びの保障を両立する取り組みを引き続き進めていく考え。

一般質問検討会議って何？ ～競争の議会から協奏の議会へ～

別海町議会改革の転機にもなった一般質問検討会議の導入について、なるべく分かりやすく説明したいと思います。

これまで議員が個別に考えていた一般質問を、全員が集まる会議で共有し、助言し合いながら内容をより良くするのが検討会議です。

この場が、議員同士の意見交換(議員間討議)にもつながり、議会の活性化にも役立っています。

この会議は公開されていて他議会の視察も受け入れています。

2月の検討会議では、議会モニター、報道2社も傍聴、議会サポーター2名に加え、神原北海道大学名誉教授にも見学、講演をしていただきました。

【神原名誉教授の感想】

議員間討議が議会運営の日常の姿になれば、個々の議員が独奏する「議員間競争の議会」から「議員間協奏の議会」に進化できるのではないかと期待している。



議会活動アラカルト

議員定数等調査特別委員会レポート

新たな委員会の姿を

全会一致で決定！

委員長 松原 政勝 副委員長 田村 秀男

【報告の概要】

これまで、11回の委員会を開催し、当議会の実態調査をしています。

また、先駆的に議会活性化に取り組んでいる町村議会の視察調査、議員間討議による委員外議員からの意見聴取、地域めぐり懇談会での意見やアンケート調査などを行ってきました。

令和7年1月24日の臨時会で調査の経過を「中間報告」しました。

①対行政の役割

議会にとって、より能率的・効果的に審査を行うため、3常任委員会を2常任委員会に統合して、いづれかに所属すること、1委員会7名程度を確保することが望ましい。

②対市民の役割

市民の声を聴き、行政に投げかけ、結果を市民に還元する広報・広聴活動は、議員としての責務そのものである。

このことから、広報・広聴常任委員会には議長を除く全議員が所属して、その業務に当たることが望ましい。

また、業務遂行の効率化などを図る観点から、「広報小委員会」および「広聴小委員会」を設けて、役割を分担して活動することが望ましい。

③対議会内の役割

広く意見を求め、多角的な視点から議会運営に係る事項を決定していくため、議会運営委員には、現在の「委員長・副議長および3常任委員長」以外の議員も加えることが望ましい。

改正前の火葬場使用料

区 分		金 額	
		住 民	住民以外
12歳以上	1死体につき	12,000円	19,200円
12歳未満	1死体につき	9,000円	14,400円
胞衣産わい物、上肢、下肢等身体の一部	1件につき	1,200円	1,920円



令和7年4月1日からの火葬場使用料

区 分		金 額	
		住 民	住民以外
12歳以上	1死体につき	25,000円	100,000円
12歳未満	1死体につき	19,000円	76,000円
胞衣産わい物、上肢、下肢等身体の一部、改葬	1件につき	3,000円	12,000円

10年ぶり、火葬場使用料値上げ！

葬斎組合議会報告

報告者 中標津町外2町葬斎組合議会議員 吉田 和行

平成27年4月から10年間、据え置きとなっていた火葬場使用料が、令和7年4月から増額改定となります。

昨今の水道光熱費・人件費高騰などの状況を踏まえた結果、大幅な増額改定が必要との説明があり、条例の一部改正案が提出され、可決されました。

2025「北方領土の日」根室管内住民大会

2月7日 根室市総合文化会館

別海町議会議長 西原 浩



根室管内の住民が一堂に会し、北方領土問題の早期解決の思いを表明するとともに、返還要求運動後継者の育成を目的として「北方領土の日」に住民大会が開催されました。

大会終了後、根室管内の中学生9名による弁論大会が行われ、発表者は歴史や今までの経緯を学び、この問題に関心を持つことの重要性を訴えるなど、弁論内容に加え発表態度も素晴らしいものでした。

審査が終わるまでのアトラクションとして、ものまねタレントのショーなどもあり、和やかな雰囲気の中で大会は終了しました。

新議会モニター決定

10名を超えるたくさんのご応募ありがとうございました。

議会モニターとは

町民参加の開かれた議会づくりに向け、議会に対する印象や意見をお聞きし、より良い議会運営に反映させるため、議会モニター制度を導入しています。

定員 10名以内 **任期** 2年間

報償金 20,000円支給（年間）

どんな仕事をするの？

- ①会議の傍聴およびアンケートの提出
- ②議会が策定し実行する別海町議会活性化計画に係る点検・評価
- ③議会議員との意見交換会への参加
- ④議会ホームページに対する提言
- ⑤議会広報に対する提言
- ⑥その他議長が必要と認めた職務

議会基本条例の改正

この条例は、議会および議員に関する基本的な事項を定め、

「わかりやすい議会」

「結果を出す議会」

「開かれた議会」

「行動する議会」

を実現し、町民の付託に応え、町民福祉の向上および持続可能なまちづくりの推進に寄与することを目的に、議会の最高規範として令和3年9月に制定しました。

今回、第7次別海町総合計画の見直しに伴い、議決要件であった「別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略及び別海町人口ビジョンの策定」を総合計画に一体化したことにより、条文を削除する改正です。

また、常任委員会が3から2に編成替えたことにより、当該条文を改正するものです。



Let's go! 議会!

別海町議会のことを知ってほしい!
新たな立候補者を後押ししたい!

議会のはてな?
を解消します! /

町民と共に開かれた議会を!

こんな思いから次回の町議選挙まで連載していきます!

Q

現在の別海町議会って?

A

人数：定数 16名
性別：男性 13名 女性 3名
年齢：最年長 81歳 80歳代 2名
最年少 40歳 70歳代 6名
60歳代 5名
50歳代 0名
40歳代 3名



Q

いくらもらってるの?

A

議員報酬 月額 22万2000円
期末手当 6月(1.25ヵ月) 31万9125円
12月(3.25ヵ月) 82万9725円
【役職のある議員の報酬】
議長 30万6000円
副議長 24万6000円
委員長 23万4000円

Q

誰でも立候補できるの?

A

条件1 投票日に満25歳以上で別海町議会議員の被選挙権があること。
条件2 供託金※として15万円を用意できること。

※ 売名や泡沫候補の乱立を防ぐため、一時的に法務局に預けるお金。
一定の得票数があれば、選挙後に返金される。(有効投票数÷議員定数)×1/10

例 令和5年別海町議会議員選挙の場合 (7199票÷16名)×1/10=約45票が必要。

これが
ホンネ!

一期生3年目 吉田 和行 議員 に聞いてみました!!

Q

議員になってから、議会の印象はどう?

A

見えていたのは氷山の一角、とにもかくにもやることが多い!
しかし、議員の職務はやりがいがあるのも事実! 決まり事の多い中で、
それぞれが知恵を出し合い、議論するのは楽しいですよ!





地域課題の解決策 町政と地域ぐるみでやっていきたい！

新シリーズの「おじゃましま〜す」は、地域で活動している団体や職場などに伺い、活動の紹介や町・議会への要望などをお聞きするコーナーです。

今回は、みんなの食堂まーるを展開している別海だんらんの会「大きな木」の総会におじゃましました。



別海だんらんの会「大きな木」

(写真 左から尾上さん、斉藤さん、石田さん、藤原さん)

役員の方にお聞きしました

Q 活動趣旨を教えてください。

斉藤会長 地域食堂などの活動を通して、地域住民が気軽に集える機会や、住民同士のネットワークを充実させていきたいと考えています。それらを土台として、さまざまな地域課題に向き合い、その解決のための一助となることを目指しています。

Q どのような活動内容ですか。

藤原事務局長 現在は年7回の食堂事業と、小学校のミシン授業補助ボランティア事業が主です。昨年度の食堂累計来場者は千人を超えました。地元の方からの食材の提供があり、食育につなげています。ミシンボランティアは、会員以外のネットワークも広がっています。

Q 地域活動は担い手不足という昨今ですが。

尾上副会長 会員は増えていますが、スタッフが楽しくやれているから、来場者がそれを見て会員になってくれます。高齢会員のやりがいにもなっています。スタッフとしてはできないけど、お金(会費)の面で協力したいと言ってくれる会員もいます。

Q 具体的な地域課題の解決策を教えてください。

石田副会長 食堂の方は、高齢者や障がいのある方、学校に行きづらい子どもが外に出るきっかけとなっているのがうれしいです。また、ミシン授業の補助も小学校との連携で始まりました。

Q 町政への要望はありますか。

藤原事務局長 長く続けていきたいので、「べつかい協働のまちづくり補助金」の継続を願っています。地域課題の解決策を地域と協力してやっていきたいので、ぜひ、役場職員や議員の方にも食堂を見てもらい、状況を知ってほしいです。私たちの活動をうまく利用して、次の展開につなげてほしいと思います。

会員の皆さまにお聞きしました

Q 活動を通しての感想は。

● 高齢なので応援するだけだけど、食堂にきて、みんなで食事しておしゃべりするのが楽しい。生きがいになっています。

● 調理やミシンとか、自分ができることによって役に立っているのがうれしい。

● スタッフが多いので、出られる範囲で無理なく参加できるから続けられます。

Q 町政への要望は。

● 高齢なので、友達と会ったり買い物に行くにも本当に困っています。早く手だてを考えて！

● ふるさと交流館にコミュニケーションルームがあれば、高齢の方たちや、お子さんを連れたママ友が集って、お茶したりお弁当を広げたりできるんだけど。

Q 議会について。

● 傍聴に行けないので「議会だより」はありがたい。

● 以前に比べて「議会だより」の内容が要約されてわかりやすい。

● 一般質問とか提言したその後のことを教えてほしい。

令和7年第2回定例会は
6月9日(月)～6月17日(火)
を予定しています



別海町議会
YouTube チャンネル



一般質問の傍聴にきてみませんか？

一般質問日

6月12日(木)・13日(金) 予定

お待ちしております!!